

C C U 部

1. 施設の整備状況

(1) 現状の概要

1) 設備

ベッド数2床、O₂配管、コンプレッサー配管、観血的モニター装置、心電図、大動脈内バルーンパンピング

2) 人員構成

教授 1名、助教授 1名 講師 1名、助手 2名、医員 1名、研修医 4名、他による運営

(2) 稼働状況、実績

常時2名の重症循環器患者の加療に用いられている。

2. 点検・評価（平成9年度－12年度）

(1) 効率化

1) IT化

患者データのファイリング化を行っている。

2) 部門の統合・廃止

特記事項なし

3) 収益性

特に高周波カテーテルアブレーション開始後収益増加あり

(2) 貢献度

1) 院内

院内の急性心筋梗塞・心不全・重症不整脈患者の収容と加療を行っている。

2) 院外

急性心筋梗塞の受入れ、心不全の加療を積極的に行っている。

3) 地域社会

高周波カテーテルアブレーション、埋込み式除細動器は県内唯一の施設であり大きく貢献している。

(3) 高度先進医療、医学の進歩への対応

現時点ではなされていないが、積極的な導入を検討している。

(4) 組織の柔軟性（人事交流）

他施設への研修を積極的に行っている。（例、小倉記念病院循環器科での研修、済生会熊本病院でのカテーテルアブレーション研修など）

(5) 情報発信度

県内外での研究発表、症例報告を積極的に行っている。

学 会 3～4回／年

研究会 3～4回／年

(6) リスクマネジメント

カテーテル検査、経皮的冠動脈インターベンション治療、心カテーテルアブレーション治療についてはいずれも危機管理マニュアルを作成している。

(7) 教育

学生ならびに研修医の臨床実習、研修の場としても開放している。

(8) 研究

- 1) 急性心筋梗塞の再灌流療法についての研究
- 2) 冠動脈疾患と各種液性因子、耐糖能との関連についての研究
- 3) 冠血管内視鏡、液性固子による冠動脈プラークの鑑別についての研究

(9) 学会活動

日本循環器学会、日本心臓病学会、日本心血管インターベンション学会、日本心電図学会、など主要学会および地方会での発表を行っている。

3. 問題点とその対策

- (1) MRSA等の感染症発症の問題
- (2) 入室時の予防着、手洗いの徹底化を検討中

4. 施設の将来展望

救急部との連携による救急患者の入室数の増加とベッド数の増床が望まれる。